



【特別支援学校のセンター的機能】

～しろがね特別支援学校による地域支援～

特別支援学校のセンター的機能として、専門アドバイザーが中心となり、前橋市・渋川市・吉岡町・榛東村の小学校・中学校・高等学校・幼稚園・保育園を訪問したり、保護者の悩みを聞いたりして、発達気になる子ども達についての継続的な支援を行っています。

4～6月までの相談依頼の件数(外部支援)

対象	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等 学校	その他	計
件数	58件	152件	11件	8件	1件	230件

(その他は関係機関からの相談および研修の講師依頼)

専門アドバイザーの仕事を紹介します。



いろいろな学校や園からの依頼を受けて、様々なクラスを訪問し、いろいろなお子さんを参観させていただいています。

特別支援教育という言葉が一般に知られるようになって、いろいろな知識が園や学校内で聞かれるようになりました。視覚支援が良いということで、写真や絵カードをたくさん持って提示している先生方や「待つことが良い」ということで集団からだいぶ遅れているのに、手洗いをずっと待っている保育士の方もいます。そのため、「写真を見せても全然改善しないんです」や「いつも朝の活動に参加できないんです」という相談を受けることがよくあります。

支援内容や方法はそのお子さんの実態や課題によって変わってきますので、これをすれば行動が改善するという決まったものではありません。

ここで、事例を紹介しましょう。これは年中児のものですが、どの年齢のお子さんでも同じことです。

ある保育園の年中児クラスに、カバンからの荷物出しや着替えの時間になると行動が止まり、友達の様子を見に行ったり、保育士さんからの促しに対して話をしたりして、次の歌の時間はいつも参加できない男児A君がいました。保育士さんは着替えや荷物出しを促すときに、用意していた写真を提示しますが、提示しても行動は変わりません。

しかし、保育参観や誕生会があるときには、素早くやるべきことを行い、皆と一緒に歌を歌っています。

つまり、他の人が参観に来て、意欲的に行動できているということは、日常の活動の流れは分かっているため、写真は必要ありません。むしろ、活動しなければならない場面にやらないでいると、保育士が写真を持ってきて楽しく話ができるので、わざと着替えをしていない様子です。

改善策はA君が活動しているときに注目を与える必要があります。A君が活動していないときには他児を大げさに褒め、少しでも活動していたらA児を褒めるようにしました。

効果はてきめんでした。

大人の働きが子どもにとって、どんな効果を与えているかを考えましょう。

日頃から、本校のセンター的機能の御理解と御協力をありがとうございます。障害の有無にかかわらず、子どもの実態把握・指導内容・指導方法について悩んでいることがありましたら、お気軽に御相談ください。

お待ちしております。



群馬県立しrogane特別支援学校

専門アドバイザー 尾岸 純子

電話 027-268-6111

FAX 027-268-6113

mail shirogane-snes01@edu-g.gsn.ed.jp

(アドレスを変更しました)